

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高次連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 体系的なカリキュラムについて、大学院委員会で検討し、2013年度までにカリキュラムを改訂する。	→大学院委員会の開催回数、各年度に提示されるカリキュラム。	C	B	/	/	/
2. 他の研究機関や大学との大学院連携を強化し、専門教育の充実を図るために、相互セミナーの開催や共同研究を行う。	→それぞれ連携先に行った学生の人数、学生の研究成果(学会発表や論文発表件数)、相互セミナーや共同研究の件数。	B	B	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 大学院委員会を2010年度は年間6回開催し、適切な授業科目の検証を行っている。2010年度に必要な性が議論されたMOT (Management of Technology) 科目の実現に向け準備を行い、2011年度から経営戦略研究科と共同で「研究開発型ベンチャー創成」を開講した。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 2010年度も専門教育の充実をはかるため外部講師による29回の学術セミナーを開催した。リサーチワークの活性化のため2010年度は理化学研究所発生・再生科学総合研究センターに4名、SPRING-8に9名、産業技術総合研究所に2名の学生が配属となった。また2011年度から兵庫医科大学との連携により1名の学生が派遣された。
その他	外部機関で集中講義を行う場合、先方機関の都合により本学の学期と重複する場合がある。事前に入念な調整と綿密な履修指導が必要である。

《評価指標データ》

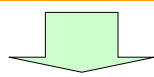
MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

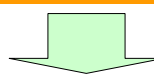
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	次年度に向けた方策) 新しい試みとして2011年度から経営戦略研究科と共同でMOT科目「研究開発型ベンチャー創成」を開講した。多数の受講者があった。
----------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「現状の説明」や「自由記述」によれば、種々の新しい取り組みがなされ、相応の成果が挙げられているように思われます。長所として「効果が上がっている事項」にとりあげることはできないのでしょうか。

【学内委員】

○教育課程の編成については、大学院委員会において定期的に検証が行われるとともに、新たに必要とされる分野でのカリキュラム編成についての検討も進んでおり、大いに評価できます。また各課程に相応しい教育内容の提供についても、研究科内の講義・実験に留まらず、外部研究機関へ積極的に学生を派遣し、教育効果を高めている点が高く評価できます。

○昨年度から計画されていた兵庫医科大学との連携に関し学生を派遣し実りをあげたことを評価します。なお、リサーチワークに関しては昨年度よりいずれも学生数の配属が少なくなったことが気にかかります。

○「大学院委員会を2010年度は年間6回開催し、適切な授業科目の検証を行っている。」とのことですが、その検証内容を認証評価の際に求められれば提出する必要があります。

○昨年度、次年度に向けた方策とされたMOT (Management of Technology) 科目である「研究開発型ベンチャー創成」を2011年度から開講されることになりました。

○両小項目とも、大学基準協会の留意すべき事項などに沿ったような概略説明を、簡単でいいので、示すことは出来ないでしょうか。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置(例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など)

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

6.2.1(現状説明)

大学院委員会を2010年度は年間6回開催し、適切な授業科目の検証を行っているを大学院のコースワークについて、それぞれの専攻の専門に関することは各専攻会議（毎月）で、理工学研究科に共通して関わることは大学院委員会（年間6回）で検証しているに変更。

★ コースワークの内容充実をはかるため、専任教員の講義だけでは不足する内容を集中講義（Spring8での集中実習を含む）として補った。

また文献演習は情報収集の方法を学び、リサーチワークとコースワークのバランスをとる科目として位置づけられている。